

2021年度活動テーマ「笑顔で育む免疫力」

東日本大震災、福島第一原発事故から11年。 忘れない、伝えていく事が私たちの責任です。

※下記は2011年総代会にて採択された決議です。

総代会特別決議

人々の協同と自立による復興と大地再生を誓い、核と原子力のない安心の社会に向かいます。

2011年春、東日本大震災と東電福島第一原子力発電所の事故は、私たちの暮らし・意識・社会を問い直すことを私たちに課しました。

わたしたちの健康は、「いのち育む食」を提供してくれた生産者のおかげです。これまでに感謝し、気持ちの支えも含めて被災と放射能汚染にあった生産者の復興・再生に具体的に協力し、共にこの困難を乗り越えていくことが地域の人たちの自立の連鎖につながり、格差や差別のない公正な日本社会、世界に連なることを願います。

生命の糧を育む大地と海の放射能汚染の除去・低減・再生を、生産者と共に取り組みます。この相互の努力こそが共に願ってきた「食の安全」への道です。

原子力発電は、生命や自然、食の安全とは共存できないと同時に、私たちの便利なくらしが他の犠牲の上に成り立っていたことをも気付かせました。

放射能汚染は「食の安全」を脅かし、消費者と生産者の信頼の絆さえも破壊して、人々を不安と苦渋に落とし入れました。

「安全神話」を推し進めた国の責任、当事者である電力会社の責任は最後まで問われますが、原子力発電に正面から向き合ってきた私たちの責任も免れません。

私たちは12年前、東海村JCO臨界事故の際「国のエネルギー政策の転換を求める声明」を決議していました。また、組合員からの六ヶ所核燃料再処理施設、上関原発への問題提起があったにもかかわらず、粘り強い運動にしてゆく努力を怠りました。

これ以上、次世代に禍根を残さないために「原子力に頼らない社会」をつくるために組合として、個人として、多くの市民とつながりながらできる行動を提案します。

まずは国がすべての原発を廃炉にすること、国・企業が放射性廃棄物処理も含めて責任を持って事故・事後処理、賠償を行うことを求めます。私たちの世代の責任において最後まで見届けなければなりません。

同時に私たちが、資源浪費の大量生産と消費のあり方を変え、何が本当に必要なものを判断し、具体的な運動・活動をすすめます。原発をなくしても私たちが安心して平和に暮らしてゆけることを証明するために、多くの人々と協力し、暮らし・社会を変えてゆく具体的な行動を起こすことをここに決意します。

この決議を言葉に終わらせることなく、継続して努力することを誓い、全組合員に呼びかけます。

2011年6月11日 常総生活協同組合第38回総代会 参加者一同

寄付、基金へのご協力をお願いします。

- ★ 被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253にて毎週受け付けています。
- ★ 関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円~にて毎週受け付けています。
- ★ 東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けています。
- ★ JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けています。

もう一度、自分にとって大切な「私は〇〇したい」を探してみませんか？

株式会社 高橋徳治商店 代表取締役社長 高橋英雄

<避難所のユートピア>

世話人を買って出た私が避難所で見たことは、社会的に弱い人たち、幼児、子供たち、障がい者、病人、高齢者、精神的にダメージを受けた人であり家族を失った男女でした。電気もない、薬もない、暖房器具もないことに加え食事や水も着替えもないことを何人かの女性中心のグループが出来て進んで解決する流れが出来ます。そして次に弱者のその個人的な心にどう寄り添っていくかの話し合いも始めます。避難所にいた見知らぬ人たちは、全員が多かれ少なかれ被災し涙も出ない真つ暗な気持ちを抱えながら、ボロボロになった人も入って ひとり一人の弱者が元気になってと沢山の「知恵」を出し合いました。たった一人の笑顔がみんなの笑顔になり体をよじる大きな笑いになっていく、その大笑いはもしかしたら出てこない涙だったかも知れないと思うことがあります。私のユートピア体験です。



そんなことが出来る会社やスタッフや私になれば、自らが元気になり周りも笑顔になる、人の痛みを理解し支え合い会社も変わる・・・私に「思い」が芽生え始めます。

<「事業」と「思い」の「両輪」があるとしたらどうだろうか？>

事業復旧は当然だと周りの経営者は血眼になっており、事業をする意味などそんなことを考えるのは復旧にブレーキをかけることだ、と頭の片隅にもないのが当たり前だと言うこと、常識だと言って言われました。しかし、震災前って本当に事業的に健全で尚且つ存在する意味もあったんだらうか？と悩むことになります。・・・そしてここで真に必要とされる会社になるんだ、そして何もなくなったからこそ、こころのふっこうをと「思い」を積み上げてきたと言えます。

<引きこもりの若者たちと出会う>

当地で1000人は下らないと言われる引きこもりの若者たちの背景を知ることになるが、DV、児童虐待、育児放棄、貧乏、格差、不登校、引きこもり、いじめ、リストカット、自殺未遂、付けられると安心する精神病名と投薬、津波で家族を亡くす、家庭内問題、パワハラ、震災後の荒廃や惨状などその背景は、二重三重の責め苦で心を閉ざすのに十分すぎる過去や今を持っていました。震災はそれに拍車をかけていた、ふと考えると私自身も会社のスタッフも被災し、心に同じモノを持ちながら心の奥に押し込めていた。

色々な方に学び考え、経験もない手仕事の野菜加工場を作ることに繋がって行く。116年の水産の加工会社が「練り製品の工場」の他に「野菜(青果)加工場」を作り手探りで二つの社会的課題にかっこうよく(笑)挑みました。青果農産物の価格と品質、そして篤農家としてプライドを取り戻す、二つ目は地域の引きこもりの若者を加工するスタッフとしたことです。借り入れも増え引きこもりたちも作業は遅い、失敗も続くし悩みも多く休む、落ち込む。でもその「事業と思いの両輪」を合わせて「一輪車」、ひとつにしよと考えたのです。たかが冷凍青果加工品ですが、「社会的課題を解決する商品」で事業と思いを二つ一緒にしてヨロヨロ・・・迷路・ため息・壁や困難は、その度に復旧半ばの私たちを何度も打ちのめしました。3月で4年になります。6名が入社しその内2名が正社員になってまだ赤字です(笑) が支援ではない・福祉でもない・社会的貢献でもなく慈善事業でもない、私たちが真摯に学んでいく、今の私たちを映す鏡になっている彼らから学びを止めない「事業」。

<私たちが変わると若者も変わる好循環>

石巻広域圏で1000人は下らない引きこもり達は ここを居場所にする為にNPOと組んで訓練生で受け入れ「ここにいていいんだよ」でも「あなたたち自身が作る居場所」になる為に手探りで、お天気以上に日々変わる(笑)。一人ひとりにしても4年を経て彼らの笑顔や元気が私たちの滋養栄養です。彼らの笑顔、元気は家族に

灯りをつけ、近所にも野菜加工場にもたくさん集まり灯りが増えて本体の練り物工場にも広がり始めました。何よりも「その人(彼ら)の身になって(よ〜く)考える」ことで逆に私たちは沢山の学びを得てきたのです。人を思う会社のスタッフたちは増えていて彼らの家庭にも思いが流れ始め、互いを考え始めています。不思議なんです。



「たやすく涙を流せるならば たやすく痛みもわかるだろう、けれども人には笑顔のままで泣いてる時もある」「命の別名」歌詞ページ。作詞:中島みゆき

私は、特に震災後 自分を顧みて、この歌詞を思うことが多くなりました。笑顔の奥の涙を見る。ただひたすら真摯に傷を抱えた彼らに向き合う、深いところで私自身と向き合うこと、気づきを得て私が変わっていくと 彼らもまた変わっていける。

翻って皆さんの生協では もう一度、組合員の足元の声を見聞きする場が必要な時じゃないかと考えています。

弱者という言い方でないにしても悩ましい課題を持っているはずです。私の周りにも生きづらさを抱えた若者たちや不登校の子供がいるし、虐待やいじめ、コロナ下で特に女性にしわ寄せがきている貧困、生活困窮、追い詰められた人たち、老老介護、障がい者やその家族、過大なストレスを抱えた人もいます。何より個々が分断され心が傷ついています。そんな社会的弱者に今の社会が投影されていると悩ましい気持ちでいます。

風通しよく悩みを語り合い、信頼できる仲間で知恵を寄せ合う、解決できなくとも聞いてもらえただけで悩んでいるその人は楽になるはずです。

気づき学びが大切です。それは人の為だけではなく 自分の為にもなって行きます。

その根っこは、人の痛みを(我がこととして)理解し、物心とも助け合うスピリッツです。「社会の課題は、家庭や個々人にも現れてきています、つまりその一人一人は社会そのものです。こんなひどい社会なんだと」

組合員自身が「生協に入った」理由を思い出してください。そして今この生協は皆さんにとって「必要なんですか？」と何年も前の総代会で発言しました。

ここの課題から考え派生して出た「命を守る生協」というスローガンでは、もう一度個々の課題に周りの人のことに立ち返って見ませんか？ 生産者も共に考え議論し 商品そのものを単に売り買いだけでもいい、しかしもう一度見直してみませんか？

必要とされる生産者として紙面に生産者の考え、現場、現状と未来を語り何より商品を磨く。企画提案する意味も少し深堀してみる、時間はかかりますが必ず売り上げは付いてくるはずです。

震災時に「私たちはお金はないが知恵がある」と話したのは当時の理事長の村井さんでした。知恵は行動に移さねばただの知恵、行動に移したときに初めて知恵が生きる。

いち早くシンチレーション放射能検出器を導入し、食品の放射能測定・あいコープ福島の母親の母乳検査活動、そして今でも続くが自分たちで栽培した和綿を種を取りベビー布団を同じ福島に贈呈、東海第二原発訴訟、関東子ども健康調査支援基金の立ち上げ、2015年茨城常総水害支援。活動は続いているがそれは命を守るという基本理念がしっかりしていなければ知恵も出ないし行動にも生かせない。

そして皆さんは 何を得たのでしょうか？ 損得じゃないです！それは分かりますが、行動して自分は何かが変わったのでしょうか、どんな気付きをもったのでしょうか、変わった自分を発見したのでしょうか。それは家庭や地域や生協に対してどんなこととして表せたのでしょうか？

忙しい生活の日々、コロナもあり、ふと感じる虚しさで個人の心が揺れて乱れ、余裕がなくどこか渴いている人は少なくないと思う。不登校の子供たちの理由は 不安だったりやる気がないということが殆どを占めているようで（大人）社会を反映しているとも考えられます。

「〇〇しなくては」に潰されないように、もう一度、自分にとって大切な「私は〇〇したい」を探してみませんか？

皆さん一人一人がこの生協であり 素晴らしい光になれると信じています。再会を楽しみに・・・お元気で。

【お知らせ】 高橋英雄社長の震災からの記録が本になりました。

東日本大震災から3年2か月間、英雄社長が携帯電話に日記をつけてきた記録を冊子にしたものです。有志4名（常総生協ではありません）の方がボランティアで1年半かけて編集作業をして作成してくれました。

編集された方々が、「奥深くところに落ちてきた勇気をひろげたい」という想いから実現した冊子になります。

※こちらの冊子は数に限りがあるため、常総生協では40冊限定で販売する予定です。集まったお金は、経費を差し引いた後、高橋徳治商店の野菜工場の運営に役立てて頂きます。

☆仕様:A5判 192ページ

☆発行日:2022/3/10

☆制作・発行者:「抗う 3.11私への遺言」発行委員会

☆経費協力費:900円



《申し込み方法》

下記の申し込み用紙又はWEBフォーム(<https://forms.gle/mmSyk44iJC2BQ6Hv9>)、右側のQRコードからお申込み下さい。

※先着順での申込とさせていただきます。

※先着順は曜日によって差が出るため、受け付けた週単位で確認し、その中で抽選とします。



《お届けについて》

お届けは3月下旬ころから供給便でのお届け開始とさせていただきます。協力費の支払いはお届けした月の月末の請求書にて追加させていただきます。

-----きりと-----

(常総生協)「抗う 3.11私への遺言」事前申し込み用紙

コース名: _____ 組合員番号: _____

お名前: _____ 電話番号: _____